

九州デザインシャレット 2022 in 熊本市

○池田隆太郎、柴田久、星野裕司、田中尚人、高尾忠志、石橋知也、増山晃太、野尾薫



様々な分野の学生・若手技術者を対象に、実際のまちづくりの課題に取り組み機会を提供。専門家指導の下、異分野との共同作業を体験させ、現代の課題に適った人材を育成する。この体験を通してその後も切磋琢磨しあえる仲間と出会い、その人的ネットワークが九州全国に広がっていくこともこれからの九州、日本の美しい風景を守り、新たな文化価値を生むための大きな力となるはずである



特徴1 地域に密着した課題設定【城下町くまもとのツボをデザインする】

歴史的なまちの骨格を現代に解釈し直し、人の流れや新たな活用を喚起する城下町くまもとのツボを刺激するデザインを提案

課題  
「熊本市会館とその周辺の公共空間」の将来的なビジョンを示し市民会館の一部ノベーションや公共空間の再編について  
模型(1/200)等を作成して具体的なデザイン計画を提案すること

熊本市街地  
江戸時代の町割り、城下町の風情が今も残る一方で、元々城を防御する都市構造のため歩行動線の連続性が分りにくく、まちなかの回遊性に課題も

熊本市会館とその周辺  
熊本城への玄関口の一つである行幸橋があり、坪井川沿いの長瀬や細川家時代の屋敷の一部が花畑公園として残されている歴史的地区

桜町・花畑周辺地区  
「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」というコンセプトのもと熊本桜町バスターミナルを併設した大規模商業施設が2019年に開業前面道路は廃道され広場化するなど施設・公園の一体的な整備が展開

特徴2 短期集中/グループワーク/合宿形式プログラム

コンセプト～プランニング～デザイン～プレゼンの基礎を体系的に習得

特徴3 実践的で多彩な講師陣

講師紹介

田中尚人 (熊本大学 教授 建築家)  
山下裕子 (ひととワークエディター 広聴リスト)  
山田浩一 (熊本市役所 都市計画課 長官 建築士)  
山田浩一 (熊本市役所 都市計画課 長官 建築士)  
山田浩一 (熊本市役所 都市計画課 長官 建築士)  
山田浩一 (熊本市役所 都市計画課 長官 建築士)

特徴4 実践的で多彩な講師陣

実践的で多彩な講師陣

講師紹介

山田浩一 (熊本市役所 都市計画課 長官 建築士)  
山田浩一 (熊本市役所 都市計画課 長官 建築士)  
山田浩一 (熊本市役所 都市計画課 長官 建築士)  
山田浩一 (熊本市役所 都市計画課 長官 建築士)

最終講評会 評価の視点

都市における広場のあり方 提案の新規性・独創性 デザインの地域性・魅力 プレゼンテーションの質

対象地に新たな5つの顔が！

最終講評会 評価の視点

都市における広場のあり方 提案の新規性・独創性 デザインの地域性・魅力 プレゼンテーションの質

対象地に新たな5つの顔が！

A 上り橋と式台  
B 庭×結ぶ  
C 大広間の舞台袖  
D 車を刺す・車刺しを重ねる  
E 川とまちを繋ぐ縁側

最終講評会 評価の視点

都市における広場のあり方 提案の新規性・独創性 デザインの地域性・魅力 プレゼンテーションの質

対象地に新たな5つの顔が！

最終講評会 評価の視点

最終講評会 評価の視点

都市における広場のあり方 提案の新規性・独創性 デザインの地域性・魅力 プレゼンテーションの質

対象地に新たな5つの顔が！

受講生の声 参加者23名から貴重なご意見・感想をいただきました！九州デザインシャレットでの学びとは？シャレットはどのような場なのか？

受講生の声

参加者23名から貴重なご意見・感想をいただきました！九州デザインシャレットでの学びとは？シャレットはどのような場なのか？

対面型と作業場を何度も往復し、意見のぶつかり合いから提案の方向性を探し、必死にアウトプットしてフィードバックに頭を悩ませる。その一連の過程が、時に苦しかった。参加者の皆さんとの絆も強固なものとなりました。

分野の異なる仲間同士で意見がまとまらないことも多いが、法則力や実行力の重要さを改めて実感できたことは社会人としても得難い経験となりました。他者からも刺激をもらい、お金では買えない経験ができました。

元々は顔も名前も知らない、立場も年齢も得意分野もバラバラの5人でチームとなり激しく議論できて非常に楽しかったです。トピックについては、この世界に入ってきたかと思いきや、おもしろい世界になりました。

本シャレットが私にとっての熊本初来訪で期待と不安でいっぱいでしたが、温かい野次を飛ばし合う先生方、作業の様子を見に来る場を和ませたり、困ったときに助けてくれたスタッフの方々に囲まれて4日間学ぶことができて良かったです。

まちをどう読み解き、ヴィジョンやコンセプトをどう描き上げていくかを丁寧に学ぶことができた。煮詰まった時や疑問が浮かんだ時にもすぐに講師陣が相談に乗ってくれて、多様な角度からアドバイスをもらったことが大きかったです。

同世代の人間達が自分の意見を的確に発言している姿や、自分達の班とは違った切り口から考えられたデザイン案を聞いて、新しい知識や学びを凝縮でき、みんながうなづいたと刺激を受けました。悩んでいた道決定の一助にもなりました。

地球の裏側を見たような、車道に接する建築分野と全く異なる視点や考え方に触れたこと、それが全プログラムの一歩の財産です。これを機に、狭い分野に固執せず、柔軟な考えをもて自分になれるよう頑張っていく所存です。

大学の中でも、実務の中でもこの密度でデザインに向き合える機会はないと思っています。自分自身がこの経験を最大限に活かしていくと共に、未来の先輩たちのためににもシャレットが受け継がれて欲しいと強く願っています。

最終講評会 評価の視点

最終講評会 評価の視点

都市における広場のあり方 提案の新規性・独創性 デザインの地域性・魅力 プレゼンテーションの質

対象地に新たな5つの顔が！